

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は緩やかに悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)

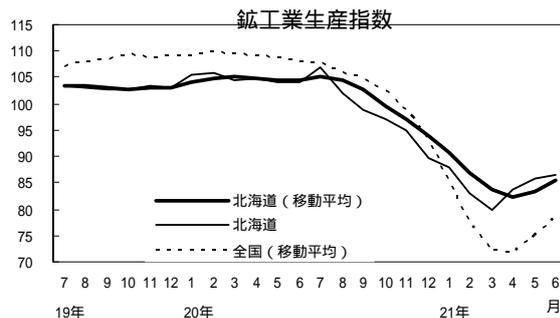
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 5 月)	今回 (平成 21 年 8 月)	
景況判断	悪化	下げ止まっている	
鉱工業生産	大幅に減少	下げ止まっている	
個人消費	さらに弱い動き	持ち直しの動き	
雇用情勢	緩やかに悪化しつつある	緩やかに悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産物の水揚量は前年を下回っている。
4～6月期は、生乳生産は、牛乳等向けが減少したものの、乳製品向けが増加したため、総量では1,010,057tと前年比1.4%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけを中心に前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は下げ止まっている。
食料品は、飲料品、砂糖が減少したことから、全体でも減少している。パルプ・紙は、製紙パルプ、新聞巻取紙等は減少しているものの、定期修理に向けた在庫積み増しのため、印刷用紙が増加し、全体でも増加している。鉄鋼は、アジア向けに動きが出てきたことから、鋼半製品、特殊鋼棒鋼が増加している。電気機械は、集積回路、シリコンウェハが大幅に増加している。金属製品は、橋梁、鉄骨が減少したものの、足もとでは、公共事業向けに増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1～3 月期	4～6 月期	4～6 月期	4～6 月期
食料品	23.9	4.4	3.6	3.8	4.2
パルプ・紙	10.7	17.0	11.8	3.2	10.5
鉄鋼	8.6	42.8	18.7	10.9	7.3
電気機械	8.4	33.7	44.6	38.4	16.3
金属製品	8.0	3.7	14.3	17.7	6.4
鉱工業	100.0	11.0	2.0	3.4	0.1

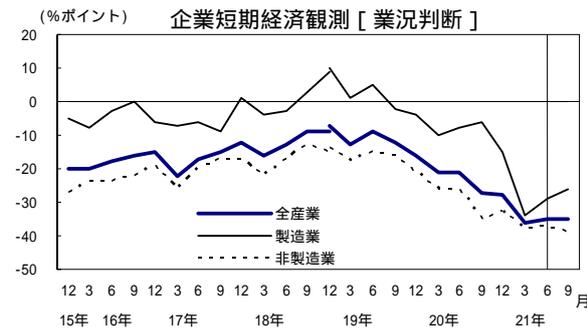
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 4～6月期は速報値。

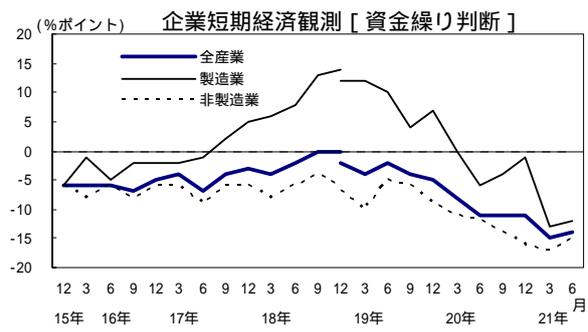
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。北海道の最新月は速報値。
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

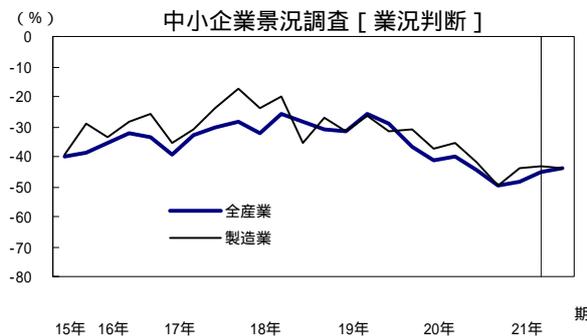
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

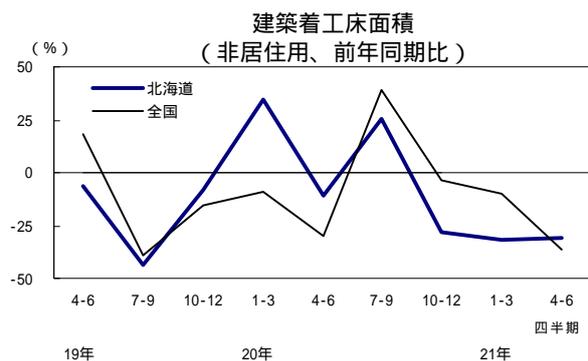
「補正予算により、地域医療再生計画や公共建築物耐震化を対象とした計画策定や診断業務が多く発注され、関係スタッフが多忙を極めている(建設業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

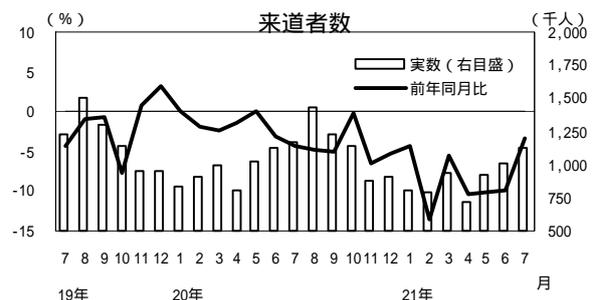
	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	5.1(7.2)	32.5(10.8)
製造業	21.7(7.1)	45.4(22.1)
非製造業	6.9(7.2)	25.7(5.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、弱い動きが続いている。

来道者数は、4月は、航空機減便の影響に加え、ゴールデンウィークの日並びの関係から、昨年4月の来道者数が多かったため、その反動により、前年比低下幅が拡大した。5、6月は、新型インフルエンザや6月の天候不順により、弱い動きが持続した。7月は、昨年のサミットによる来道者数減少の反動で、前年比低下幅は縮小したものの、依然弱い動きとなっている。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

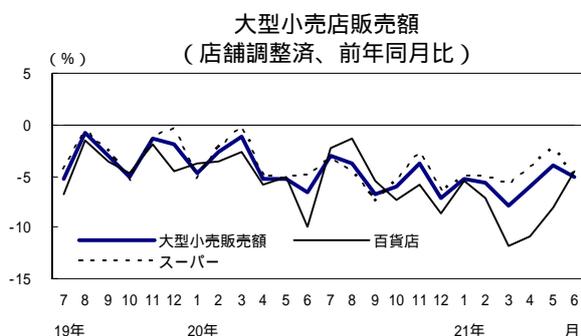
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、飲食料品、身の回り品が引き続き低調だったほか、衣料品も、客の買い回りがセール品に集中し、定価商品が苦戦したため、前年を下回った。5月は、ゴールデンウィーク後半からの気温上昇により夏物衣料が好調だったものの、飲食料品、身の回り品が引き続き低調で前年を下回った。6月は、百貨店の閉店セールもあり、前年比低下幅が縮小したものの、引き続き前年を下回った。日本百貨店協会によると、7月の売上高は、札幌地区で前年同月比6.4%減、札幌を除く北海道地区で同12.9%増となっている。

スーパーは、ゴールデンウィーク後半からの気温上昇により、5月の衣料品の動きが良かったものの、全体としては、飲食料品、衣料品ともに低調に推移し、前年を下回った。

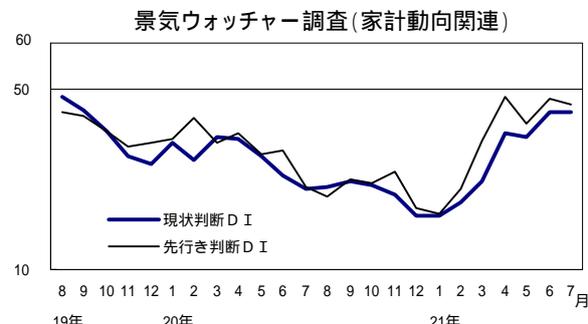
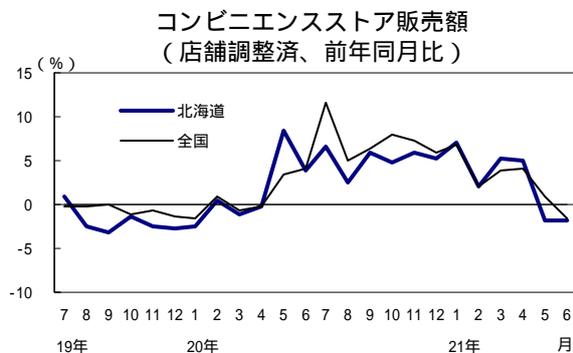
景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「エコポイント制度の効果で、薄型テレビや大型冷蔵庫の販売は順調だが、パソコンや携帯電話が不振である。更に、梅雨のような天候で、扇風機やエアコンなどの季節商材の需要が前年の半分に落ち込み、全体として、ほぼ横ばいの状態となっている(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	4.5	5.8	6.3	5.1
百貨店	3.0	7.4	8.3	7.8
スーパー	5.1	5.1	5.4	3.9
乗用車	2.1	14.7	22.2	13.5
景気ウォッチャー	28.6	25.8	25.3	41.5

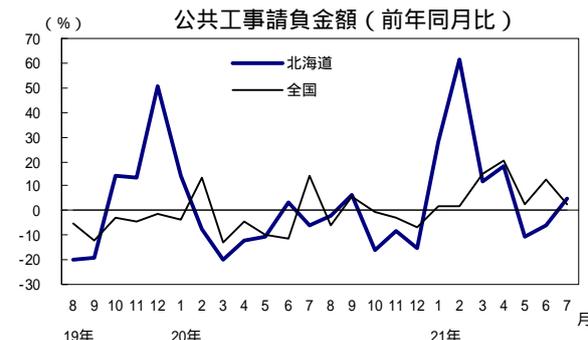
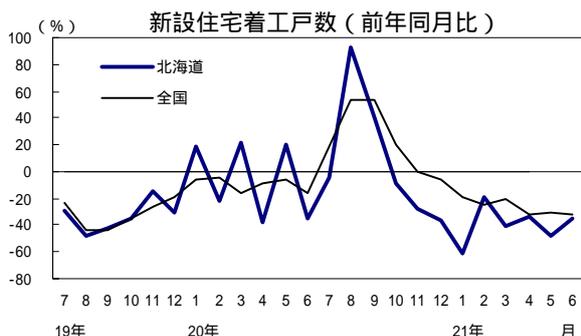
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



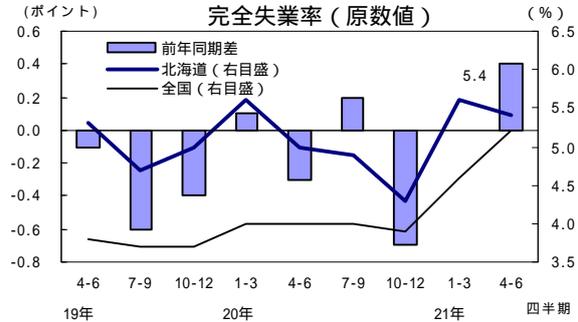
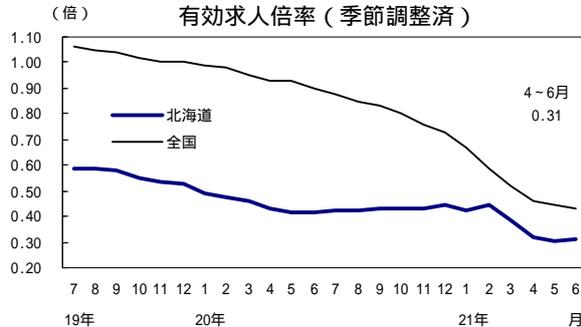
3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は緩やかに悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)は低下し、有効求人倍率(常用)についても前年同期を下回っている。完全失業率は前年同期を上回っている。

有効求人倍率の動きには平成19年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

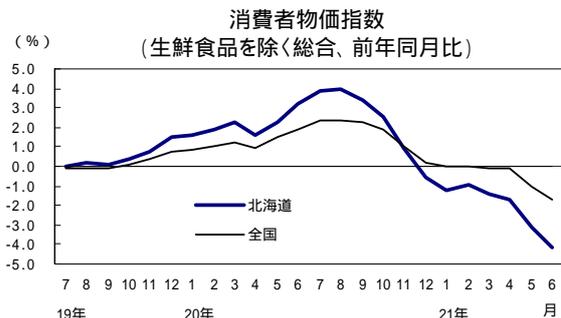
「農産物の収穫に伴う1次加工及び2次加工の求人は増加傾向にあるが、それ以外の求人は低調であり、全体の数字を押し上げるまでには至っていない(求人情報誌製作会社)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	190	189	175	156	39
(前年比)	37.7	43.2	4.2	16.6	45.8
負債総額	706	569	1,088	719	115
(前年比)	52.1	30.3	55.5	63.6	54.3



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・新型インフルエンザに対する過剰反応は沈静化したが、延期になった案件がまだ実施されていない。また、地域経済の先行きの不透明感から、夏休み需要も法人需要もすべて「安・近・短」傾向が強くなっており、日帰りや1泊の旅行が目立っている(旅行代理店)。

<先行き>

・不況が続くなか、現在の冷夏、長雨が回復しなければ、農家の収入も減少することになるため、今後の景気は良くならない(スーパー)。

景気ウォッチャー調査（合計）

